

しみん基金・K O B E NEWS

Vol.41

2017年3月号



認定 NPO 法人しみん基金・K O B E

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203 (サンピア 2 F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/

リアルなクラウドファンディング

しみん基金・こうべは、99年より皆さまから当基金に託された寄付を、公開審査会を通じて市民活動団体に配分する活動を行っていました。しかし2012年〜16年の間に日本の主要なクラウドファンディングの累計支援月額が約80倍に増え、市民が直接、自分で選んだ団体に寄付をすることがとても身近になりました。そこでネット上ではなくリアルな場でのクラウドファンディングの要素を取り入れた新たな試みとして、神戸市東部の支援者と地域密着で活動している市民活動団体が実際に会って交流し、支援者が応援したい団体を直接選ぶイベントを、CS神戸と、はんしん高齢者くらしの相談室との共催で開催いたしました。

イベント名は「寄付が つなげるひと 育てるまち」Tani matching 2017〜18です。Tani matchingのタニマチというのは、明治の初めごろ現在も大阪市中央区にある谷町に相撲好きのお医者さんが住んでいて、金銭面や食事、怪我の治療などを無償で行っていた所から、いわゆる支援者のことをいいますが、このイベントはそのような好きな団体を応援したいと思う人が、団体を審査し評価するというよりは、直に団体を応援し、つながりを創る場を目指したものです。コミュニティファンドとしての当基金の今後の事業形態の再編成も見据えたひとつのイベント試行となりました。

しみん基金・こうべ理事長

戒 正晴

(戒)太田法律事務所 弁護士

寄付が つなげるひと 育てるまち

主催：しみん基金・K O B E 共催：CS神戸、はんしん高齢者くらしの相談室 後援：兵庫県、神戸市、神戸青年会議所、神戸市社会福祉協議会

目次		
寄付が つなげるひと		5
育てるまちご報告	2	つなごう神戸/おすすめBOOK
こうべあいウォークご報告	4	22年目のひとりごと
		6



1

写真：寄付が つなげるひと 育てるまち開催時

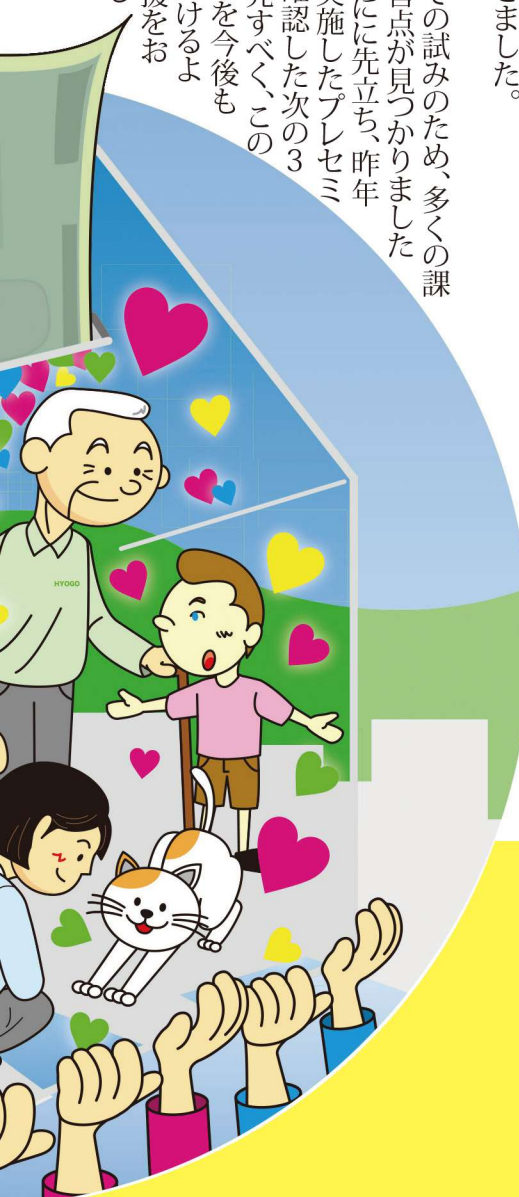
Tani matching2017 開催しました。

当基金と、認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸、NPO法人はんしん高齢者くらしの相談室との三者による共催イベント「寄付が つなげるひと 育てるまち」(Tani matching 2017)を2月4日(土)、神戸ベイシエラトにて開催しました。

このイベントは、地域住民や企業のみならず、市民活動団体のプレゼンを直にきいていただき、「是非応援したい!」と思う団体にその場で「寄付」という形で、その「想い」を託していただくという、初めての試みです。今回は特に神戸市東部の市民や企業のみならず、地域密着で活動する6つの市民活動団体にお集まりいただきました。

当日は31人の支援者にお集まりいただき、合計28万2千円の「想い」で6団体を応援することができました。金額的には大きなものではありませんが、普段あまり接点のない企業と市民活動団体が出会い、交流し、それぞれに新たな学びがあったというご意見をたくさんいただきました。ことができました。

初めての試みのため、多くの課題や改善点が見つかりました。が、今回に先立ち、昨年11月に実施したプレセミナーで確認した次の3点を啓発すべく、このイベントを今後もうご支援をお願いします。



(1) 市民活動団体は、寄付を「お願いする」という関係性でなく、ある課題に対するプロとしての解決策を買って頂くという関係を構築していく必要がある、そのためには、市民活動団体は、PDCAサイクルをしっかりと回すマネジメント力が求められる。

(2) 企業は、市民活動団体とのウィンウィンの関係をつくるためには儲けの面だけでなく、従業員が市民活動を応援するプロセスに関わることを通じてチャレンジ精神が養われ人材育成にもつながる、という視点を持つことが求められる。

(3) 市民は、自分たちが住みやすい良い街にしたいという想いを実現するためには、自分たちが、身近な助け合いの活動に共感して寄付という形でその想いを託すことが求められる。



15:35 マッチングタイム



15:40 集計



15:45 結果発表



15:50 市民活動団体コメント



16:00 支援者・後援者コメント

寄付がつなげるひと そだてるまち

プレゼンテーションは左記の6団体が行いました。



①居空間 RocoCo

「地域の方々に自宅の居間のような空間を提供したい」と阪急六甲駅近くで、週4日カフェを開いている。



②こうべ子どもこにこ会

多様な文化的・社会的背景を持った子どもたちがアイデンティティを保持し、自分自身や自文化に対する誇りを持つ環境作りをめざしている。

③NPO法人こども育ちわたし育ち madorina

潮芦屋を中心に幼児教室、親子教室を通してみんなが自分らしく、自分を大切に出来る「誰もが暮らしやすい地域ユニバーサル社会」を目指している。

④NPO法人花たば

いつでも一人になれる、いつでも誰かに会える、いつでも誰かに任せられるコミュニティハウスを建設。入居者だけに限らず、ゴミ出しサポートなどに取り組んでいる。



⑤東灘こどもカフェ

(あたふたクッキング甲南) あたふたクッキングは阪神・淡路大震災での炊き出しを続けた経験を活かして配食事業を続けてきた。2015年、東灘こどもカフェが新たな運営主体となった。

⑥NPO法人ホザナ・ハウス

子どもの権利を守る立場と、更生保護の立場で、少年院、児童養護施設出身少年たちの自立の助けをするために設立。障がい者支援との2本柱で活動している。



■主催…(認定特活)しみん基金・こうべ
■共催…(認定特活)コミュニティ・サポートセンター神戸、

(特活)はんしん高齢者くらしの相談室

■後援…兵庫県、神戸市、神戸青年会議所、神戸市社会福祉協議会

■助成…ひょうごボランティアプラザ



13:00 開会



13:10 支援者紹介



13:20 市民活動団体プレゼン



14:25 交流タイム



演奏者のみなさん

震災22年！

こべあいウォーク 2017

こべあいウォークも今年で19回目となりました。

今年、約百50名の参加者の方々に朝早くから集まっていたきました。雪もちらつくほどの寒さでしたが、天候には恵まれました。4キロほどの道のりを3チームに分かれ、若松公園や大正筋商店街、旧二葉小学校、丸五市場、水笠通公園などに立ち寄り、ゴール地点である「みくら5」までを、ガイド役や地元の方々のお話を聴きながら、また買い物や食べ歩きをしながら3時間ほどかけて歩きました。

東北や熊本からもご参加いただきました。熊本から参加された方は、「復興を進めるのは住民の強い思いだと知った。私たちも南阿蘇オリジナルの復興のまちづくりを進めたい。」と言われたそうです。

ゴール地点である「みくら5」ではあの時のことを思い返すために炊き出しの豚汁を頂きました。



ご参加いただいた方にはスタート受付時に募金(一口千円)を行い経費を差し引いた13万3千7百4円を当基金にご寄附いただきました。

(左記会計報告を参照) こちらのご寄附は、来年度の当基金助成事業の助成金として活用させていただきます。

(助成事業の様子や結果は、随時当基金ホームページで公開いたしますのでご覧ください。)

ご参加いただいたみなさまとご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

■主催：こべあいウォーク2017

実行委員会

(特活)神戸まちづくり研究所、

(認定特活)まち・コミュニケーション

(認定特活)しみん基金・こべあ

■協力：近畿労働金庫地域共生推進室

■食品提供：井上食品株式会社

■会計報告

収入

当日募金	13万3千81円	百31人記名
協力金	3万円	(近畿ろうきん)
収入合計	16万3千81円	

支出

印刷費	8千4百20円
チラシ・当日配布資料印刷	
調理材料費	1万3千5百57円
豚汁材料代	
(※ガス代金は兵庫商会より寄附)	
イベント保険料	7千5百円
支出合計	2万9千4百47円

収支差額

13万3千7百4円



つなごう神戸運営協議会事務局に

選定されました！



4月1日から神戸市内の市民活動団体、市民企業の情報を一元的に発信するポータルサイト「つなごう神戸」の事務局を担うことになりました。この事業は神戸市と協働協定書を結び実施します。

このサイトは、NPO、企業、学校、行政並びに市民のニーズとニーズのマッチングを促進し、市民活動の活性化を図ります。また企業へのアプローチを行い、CSRに基づいた市民活動の底辺拡大を図っていきます。

当基金が実施してきたイベントや助成活動との連動なども考えられ、

新たな試みを今後検討していきたいと思えます。ぜひ皆さま一度、「つなごう神戸」で検索をお願いします。PCの他、スマホからでもご覧いただけます。

おすすめ BOOK



中村安希著 「N女の研究」 (ワイルムアート社、2015)

「N女」という言葉を聴かれたことありますか？N女とは、高学歴や大企業勤務の経歴を持ったうえで、NPOや社会的企業などいわゆるソーシャルセクターで低収入にもかかわらず働いている女性を指す言葉です。この本は、信念とか自己実現の意識がある「団体の代表」ではなく、純粋に就職先としてNPOに携わっている10人の「N女」たちへのインタビューで構成されています。

本の中で筆者は、「N女」たちの仕事に取り組む姿勢を、とても「リアリスト」であると書いています。つまり、彼女たちは、現実的で冷静、あまり感情論や精神論に溺れることなく、数字などを見て、自分がこういう風に立ち回って社会をよくしていくべきだ、とちゃんと考えられる人だ、と紹介しています。

女性の生き方は、様々なライフイベントもあって、正解がないといふか多様化しています。どの道をとっても良いこともあるし、悪いこともあるけど、そういった中でも、実に前向きに捉えてNPOでの仕事に取り組むのが、「N女」たちの特徴だと筆者は言っています。

あいかわらずNPOは経営マインドが弱いところが多いのですが逆に「N女」たちはそこが強いので、このような彼女たちが増えれば、NPOの改革が進むだろうと思います。諸外国に比べて、日本はNPOの存在感が薄いのが現状です。しかし、「N女」たちが活躍することで、NPOが本当の意味で社会問題を解決する一翼を担う日が近づいてくるのかも。「N女」たちのこれからの活躍に期待したい、と思いました。

22年目のひとり言

〜絆って言うな〜

昨年行われた全国学力テスト(小中対象)の公表された結果から導き出された課題に興味を覚えている。例えば国語での課題では、「相手の立場を考えながら話し、論理的に自分の考えを相手に理解させること」に課題があるとされている。

日本人は「ティベート下手」と云われる。「暗黙の了解」「場を読む」「沈黙は金」など、語らないことが美とされる文化が日本にはある。しかし、これはあくまでも相手方や周りの考えを十分に理解し、自らも理解されているという前提条件が必要である。この前提条件を作っていくことが日本人は本当に下手なのだ。社会自体が他者との摩擦を起こさないことをモラルのようになつているが故に無用な議論や互いの考え方をぶつけ合う機会を奪っているようにも思える。

市民活動や災害ボランティアの場でも、サービスを提供する側、される側でそれぞれの思いや立場がある。相手といかにコミュニケーションしていくのか、思いやるとはどういう意味なのか考えれば考えるほど、解らなくなる。「絆って言うな!」東日本大震災復興しつつある現場から見えてきたものを読んで、更に混乱している今日この頃だ。

しみん基金・こうべ

専務理事

瀬戸口

仁三郎

会員数とご寄付のご報告

◆正会員 個人34名 団体2 団体

◆賛助会員 個人41名 団体10 団体
(2017年2月末現在)

◆寄付・募金合計金額
61万7百59円

◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

- 中島秀男、飛田雄一、赤松竜、井上由紀子、戎正晴、石田茂、植田雅人、久戸瀨明彦、齋藤英明、林英伸、瀬戸口仁三郎、南嘉邦、高島章光、當間克雄、中西大樹、中村順子、前田典俊、森竹和政、八木議大、福原敏晃、鬼本英太郎、勝部慶子、他一名
- オレンジスリフティ、ヤフー(株)、ブックオフコピーレーション(株)、ブックオフオンライン(株)、コーベベビー(株)
- (株)神戸介護ケアウイング(株) LEIS、(二社)こうべつながり(株)阪神調剤薬局、(株)伊藤商会、大阪石材工業(株)、大和リース(株)、積水ハウス(株)、ロック・フィールド(株)、フェリシモ(株)、こうべあいウオーク2017実行委員会、兵遊協福祉基金

(2017年1月〜2月)
※皆様方からのご厚志に深謝致します。

クレジット決済もご利用頂けますのでご利用ください。

当基金ホームページの「クレジットサポーター」からアクセスできます!

「しみん基金・こうべ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間3千円
団体会員 年間1万円

お申し込みは電話・ファクス・メールなどでお名前・ご住所・電話番号をお知らせください。ホームページからクレジット決済も可能です。

★振込口座

三井住友銀行三宮支店

普通 7965892

みなと銀行本店営業部

普通 1597921

近畿労働金庫神戸支店

普通 4161854

郵便振替

09990151157334

口座名義すべて

「しみん基金・こうべ」

今年度はラジ関まつりに神戸女子大学の学生さんと協働で

出展したり、いつもの公開審査会とは一味違う形で団体支援をするイベント

「寄付がつけるひと 育てるまち」を開催したりして、新たな寄付者開拓にチャレンジしました。これらを総括し、来年度計画に活かさないといけません。(と)